

論点（案）

（4 年制ニーズへの対応）

- 卒業生が創造的で豊かな社会で活躍していくことができるよう、これからの社会で必要な能力の高度化・多様化にあわせ、多くの大学が、単に各分野の専門知識の教授だけではなく、起業家精神やグローバルマインドの育成、デジタル技術への対応等にも力を入れている。学生の選択は 4 年制が優勢となる中で、公立の高等教育機関としては学生のどのようなニーズに対応していくことが有意義か。
- 短大進学希望者は減少しているものの、学生の経済的事情や、就職への直結度の観点から一定のニーズがある。他方で、修学支援新制度によって経済状況にかかわらず学生が進路を選択しやすい環境が生じていることを踏まえ、公立短大の意義に変化はあるか。
- 岐阜県の地域特性として、国立総合大学である岐阜大学と、多様な分野で複数の私立大学がある中、公立の 4 年制大学は医療系の一部ニーズをカバーするにとどまる状況をどのように考えるか。
- 名古屋など近隣地域にも豊富な進学の実績がある岐阜市の環境において、公立の高等教育機関は、特に地域との関わりにおいてどのような役割が求められるか。地域貢献、研究機関・地域シンクタンクとしての機能や、地元への人材輩出の観点で、短大と 4 年制大学それぞれに特長はあるか。
- 短大という教育機関の多くが女子教育の歴史と密接な関係にあったことを前提に、別学を巡っては、高等教育進学率における性差の縮小やジェンダー平等意識の上昇などの社会の状況変化があることを踏まえ、短大・4 年制のあり方をどのように考えるか。

(提供する学問分野のあり方)

- 高等教育機関として、学生が多様な価値観に触れ、ともに学び合う環境が望まれるとすれば、これまで女子教育の観点から人文・家政系の学科を提供してきた岐阜市立女子短期大学について、全体像としての将来構想を描く中では、分野の追加や変更を検討する必要があるのではないか。
- 短大においてはこれまで主に職業に直結した教育内容が重視されてきたが、4年制ニーズへの対応も含めて将来像を考えた場合、学科の新設・再編等を資格取得などには必ずしもこだわらない観点から考えるのではないか。
- 各分野の高度な専門性育成と同時に、学生共通の教養教育において、従来のリベラルアーツに加えて重要視される能力の多様化（デジタル、STEAM、起業家精神等）にどのように対応していくか。
- 学問分野のあり方を考える上では、岐阜県内の既存の大学、特に国公立大学で手薄な分野をカバーしていく方向性が考えられるのではないか（その際、高校生の希望が高い分野も参考）。具体的にどういった分野が考えうるか。
- 現在の岐阜市立女子短期大学の教員構成・学科構成で培ってきたものを生かしつつ、発展的に新たな将来像を描くという観点から、提供する学問分野を考えていくことができないか。